

紙ふうせん

KAMIFUSEN No.80

成田市立図書館だより 第80号

2016年(平成28年)3月15日発行

編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

<http://www.library.city.narita.lg.jp>

☎ 0476-27-4646 (自動応答)

0476-27-2000 (直通)

FAX 0476-27-4641



バレンタインデーに合わせて
ミニ展示を行いました



蔵書点検期間中、休館を利用して
書棚の大掃除も行います



なつやすみおはなしかい
子どもたちはお話にじっと耳を傾けています

今回の特集は、紙ふうせん第74号で取り上げた、「図書館の仕事」の第2弾です。「本が図書館の棚に並ぶまで」そして「図書館の本の利用が終わるまで」をご紹介します。



本がどのように図書館の蔵書となり、どのように役目を終えるのかご存知ですか？

今回は、「本が図書館の棚に並ぶまで」と「図書館の本の利用が終わるまで」に分けて、普段はあまり知られていない図書館の裏側の仕事をご紹介します。

本が図書館の棚に並ぶまで

① 本を選ぶ

『出版年鑑2015』によると、2014（平成26）年の日本の新刊出版点数は約8万点。毎日約200点以上の新刊が出版されています。図書館ではこの膨大な本の海の中から、利用する人の「知りたい」「学びたい」という気持ちに十分に答えられるよう、本を選んでいきます。



選書担当者が、1日かけて本を選びます

選書会議

図書館では本の専門職である司書が、毎週行われる選書会議で蔵書として受入れる本を選んでいきます。毎週、約1500点の新刊書が掲載されているリストを基に、受入れる本を担当全員で検討します。

また、数百冊の本を実際に手に取り、装丁や内容を見ながら行う「見計らい」も実施しています。

人々の価値観が多様化し、本の内容も細分化された今の時代、幅広い世代の方々にご満足いただける蔵書を用意することが求められます。このため司書は文学や社会科学など各々の担当分野を持ち、出版案内や書評に目を通すなど出版動向を研究した上で選書に臨みます。

選書会議では新刊書を選ぶことに加えて、リクエストを受けた本や図書館に寄贈された本の選定を行います。

最近はインターネットからも手軽に本が予約できるようになり、特定の本に多数の予約が入るようになりました。蔵書全体のバランスを考えながら、本をなるべく早く提供できるように、追加で購入する冊数をこの場で検討します。

本を選ぶことは図書館の魅力を左右する大切な仕事です。図書館のプロである司書は、蔵書の利用傾向や社会情勢に常に眼を向けて情報収集に努め、選書に生かすよう心がけています。



選書会議では、数百冊の本を実際に手に取り装丁や内容を見る「見計らい」も実施しています



② 蔵書として受入れる

注文した本は毎週土曜日に約1100冊ほど納品されます。

納品された本には、1冊ごとに異なるバーコードシールやラベルが貼られ、長期間の使用に耐えられるように保護フィルムが施されています。

受入れの際は、まず本の注文内容に誤りがないか、破損や乱丁がないかを1冊ずつ確認していきます。地図や型紙などがある本に関しては、本体に付録をつける作業も行います。

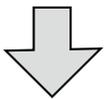
次に、本の情報を1冊ずつコンピュータ上に呼び出し、誤りがないか確認して、データ上での受入処理をします。こうしてようやく本が図書館の蔵書となります。



毎週、約1100冊の本が納品されます



受入れた本の装備を行っています



③ 新刊を並べる→皆さんの手元へ！

新刊コーナー

新しく受入れた本を、本館では1階「新刊コーナー」に毎朝並べます。

図書館が9時30分に開館すると、真っ先に新刊コーナーのまだ誰にも触れられていないピカピカの本をチェックする人もいます。



開館前、50～100冊の本を
新刊コーナーに並べます



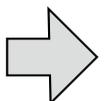
毎日100冊以上の本が
予約受取コーナーに新しく並びます

予約受取コーナー

受入れた本の中で予約の入っているものは、本館では予約受取コーナーに並べます。

ここでは本を予約した人が職員の手を介さずに、自分の手で予約図書を借りることができます。全国の公共図書館でも導入実績の少ない最新の仕組みです。

次のページからは、「図書館の本の利用が終わるまで」をご紹介します。



図書館の本の利用が終わるまで

① 除架（じょか） ～開架（かいか） から書庫へ～

本館1階の公開図書室には約12万冊の本がありますが、図書館には毎日多くの本が新しく入るので、しだいに並べるスペースが無くなっていきます。そこで書棚にある本の中から、年数を経て内容が古くなったり、利用が少なくなった本を抜き出して書庫へと移します。この作業を除架と呼んでいます。

必要に応じて、本を公開図書室の棚から書庫に移すこと（除架）で、一番利用しやすい状態に保たれた魅力的な書棚を作ることができます。

除架された本が置かれる書庫には、公開図書室よりもさらに多い50万冊もの本が保管されています。



利用が少なくなった本を書庫に移します

雑誌のバックナンバーが整理と並ぶ書庫の中



雑誌のバックナンバーを数多く保管することは、書店にはない図書館の大きな役割です。雑誌によって保存年限は異なりますが、週刊誌はすべて3年間保存しており、長期間の利用が見込まれる雑誌は30年前の開館当時のものも保存しています。

② 除籍（じょせき） ～リサイクルする本を選ぶ～

除架された本は書庫に収められますが、保存スペースを有効に活用するためには整理整頓された状態に保つ必要があります。そこで、書庫内で長い間利用されない本や、汚れや傷みの激しい本を抜き出す除籍という行程があります。除架とは違い、除籍された本は図書館の蔵書ではなくなるので、より慎重な対応が求められます。今後その本が利用される可能性の有無を判断したり、類似した内容の本の有無を確認します。除籍候補となった本は一定期間所定の棚に保管され、司書職員が、蔵書として残すべき本を選び出します。最終的には月末に行われる会議で、除籍して良いか検討しています。

蔵書として残すことになった本は書庫に戻されます。除籍は魅力ある蔵書づくりの一環として、司書の高い知識と多くの経験が必要な仕事です。



除籍候補本を手に取り、意見を出し合います



③ 資料のリサイクル



多くの人を訪れたリサイクルフェア



本館1階リサイクルコーナー

除籍された資料は、リサイクル本として再活用されます。保存年限の過ぎた雑誌や長年利用されて傷みの激しい本は、再生紙になるコースをたどります。

比較的状态の良いものは、本館1階のリサイクルコーナーに置き、図書館を利用される皆さんに自由にお持ち帰りいただいています。児童書の一部は市内の小中学校の図書室で再利用されています。

2015年9月27日に「もりんぴあフェスティバル」内で開催されたリサイクルフェアでは、来場された方々に約2200冊の本をお持ち帰りいただきました。

リサイクルコーナー

○お持ち帰りいただけるのは、1度に5冊までです。

○営利を目的としない範囲内の

ご利用をお願いいたします。

※持ち帰った本の返却はご遠慮下さい。

☆図書館の仕事 + α 蔵書点検☆

図書館では年に1度、蔵書点検を行います。これは、図書館にあるすべての本や雑誌の棚卸しです。本館と公津の杜分館、公民館図書室等に所蔵されているおよそ100万冊の本のバーコードを専用の機器で1冊ずつ読み取っていきます。専門の会社に委託し、終夜にわたる作業が行われます。

本は一度所在が分からなくなると膨大な蔵書の中から1冊を探し出すのは困難で、その本を必要とする人がいてもお渡しできません。蔵書点検を行うことで、所在不明の本を発見するとともに、すべての蔵書があるべき場所に収まっているか確認します。本の状態を正確に把握することは、図書館サービスを適切に行う上で基本となる大切な仕事です。



指先サイズの小さな機器で、本のバーコードを読み取ります

こぼれ話 ～BDSについて～

図書館では未貸出の本の持ち出しを防ぐため、2007（平成19）年からブックディテクションシステム（BDS）を導入しています。貸出手続きを完了しないまま出口のゲートを通ると音が鳴る仕組みです。このシステムのおかげで、不明本の数を大幅に減らすことができます。図書館には欠かせないシステムです。

図書館の1年

	4月	5月	6月	7月	8月
図書館の行事			<p>*児童講座 (科学あそび)</p> <p>科学あそびと題して、いろいろな実験や工作を行いながら楽しく科学に親しめるような内容の講座です。「LEDでじっけん!」「偏光板であそぼう」「化石・ふしぎな石」などのテーマで開催しました。</p> 		<p>*なつやすみおはなしかい</p> <p>幼児と保護者のためのおはなし会と小学生のためのおはなし会の2部構成で行います。</p> 
	<p>☆おはなし会☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ○えほんのおはなしかい (第3を除く土曜日) ○おはなしかい(第3土曜日) ○0・1歳のおはなしかい(第3または第2金曜日) ○2・3歳のおはなしかい(隔月第3または第2金曜日) ○公津の杜のおはなしかい(月2回) <p>☆映画会☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月4回程度開催 		 <p>図書館では各種おはなし会・映画会を行っています。詳しい内容は図書館のホームページや広報なりたてでお知らせします。このうち0・1歳と2・3歳のおはなしかいは、わらべ歌や絵本の読み聞かせを中心にお子さんと保護者の方が一緒に楽しめる内容です。</p> 		
展示	<p>*一般展示</p> <p>本館1階の特設コーナーの展示。2ヶ月毎にテーマを決めて幅広い観点から本を集めて展示し貸出もしています。</p> <p>今年度は「農を知る」「北陸へ」「戦後70年」「作曲家たちの生涯」「アイドルが好き」「和歌－日本人のこころ－」「あたたかい福祉 よりそう介護」と題した展示を行いました。</p>		 <p>*児童展示</p> 		
図書・出版界	<p>*こどもの読書週間 (4/23～5/12)</p> <p>*本屋大賞発表</p> <p>*図書館記念日 (4/30)</p>		<p>本屋大賞は全国の書店員の一番売りたい本の投票によって決まる賞です。図書館でも受賞作には多くの予約が入っています。1950(昭和25)年4月30日図書館法が公布され、これを契機に日本の図書館活動は近代的な公共図書館の時代を迎えました。図書館発展の基盤となったこの日を、図書館記念日としています。</p>		<p>*芥川賞・直木賞発表 (上半期)</p> <p>ともに1935(昭和10)年に創設された伝統のある文学賞。その違いは芥川賞が純文学の新人に、直木賞が無名・新人～中堅作家の大衆文学小説に与えられること。2015(平成27)年上半期は又吉直樹氏が芥川賞を受賞し、大変話題となりました。</p>

図書館ではおはなし会や文学講座などの各種イベントを行っています。またテーマごとに図書館の本を集めた展示も行っています。ここでは図書館と関連のある出来事や記念日と共に、その詳細をご紹介します。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<p>*文学講座</p> <p>毎年、著名な作家・小説家を招いて講演会を開催します。今までに来館いただいたのは、今年度の谷川俊太郎氏・賢作氏をはじめ、五木寛之氏、林真理子氏、山本一力氏、重松清氏、海堂尊氏ほかの方々です。</p>	<p>*市史講座</p> <p>成田市や千葉県の歴史に関連した講座を毎年開催します。今年度は「明治学制期における小学校の創設と下総地区4小学校のあゆみ」と題して行いました。</p>	<p>*大人のためのおはなし会</p> <p>素話をメインに絵本の読み聞かせも含めて大人のためのおはなし会を開催します。</p> 			<p>*はるやすみおはなしかい</p> <p>「なつやすみおはなしかい」と同様の構成で春休みのおはなし会を開催します。</p>

***蔵書点検**

○ブックリストの配布

- 「ばんざいいちねんせい」(4月)
- 「いいほんみつけた！
—なつやすみにすすめる本—」(7月)



図書館の蔵書は雑誌も含めると100万冊以上になります。全蔵書の所在確認のため本に付けられたバーコードラベルを1冊ずつ読み取って点検します。2007(平成19)年にブックディテクションシステム(BDS)を導入してから、行方不明本の数が大幅に減りました。



本館児童コーナーで2ヶ月毎にテーマを決めて本の紹介、貸出をしています。最近のものでは「ばんざいいちねんせい」「なつやすみにすすめる本」「うさちゃんとオランダのおはなし」などです。

***児童展示**
(窓際:季節もの)

節分、ひな祭り、こいのぼり、七夕、お月見など、季節の行事に合わせて絵本や物語、紙芝居を展示・貸出しています。



みんなが書いてくれた大好きな本を大きな木に貼りつけました。

***読書週間**
(10/27~11/9)



戦後間もない1947(昭和22)年、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと第1回が開催されました。文化の日を中心にした2週間。32年前の成田市立図書館の開館日は読書週間初日の10月27日でした。

***芥川賞・直木賞発表**
(下半期)

***雑誌の日**
(3/4)
***絵本週間**
(3/27~4/9)

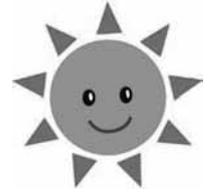


科学あそび講座

「LEDでじっけん！」



～きれいな光のランプをつくろう～



講師 科学読物研究会 坂口美佳子氏 2015.7.24



楽しいお話で子どもたちを科学の世界に引き込む坂口先生

今年度の科学遊び講座は、「光」をテーマに行われ、当日は午前・午後の回合わせて75名という、昨年を上回る数の子どもたちが参加しました。

最初に講師の坂口先生から、「光」についてお話があり、「光」が複数の色に分かれることを「虹」を例にして学びました。次にお話は「電気」へと移り、「電球を発明したのは誰？」と先生から質問されると、「エジソン！」と元気な声がたくさんあがりました。子どもたちは、先生の話に驚いたり笑ったり、興味津々な様子です。また、2014

年日本人が青いLEDの発明でノーベル賞を受賞したお話があり、LEDは電球よりも軽くて明るく、省エネであることを教えていただきました。

その次に、部屋を暗くし、ろうそくやLEDライトを使った光の実験を行いました。

実験の後には、工作の時間です。まず、偏光板を使って光の万華鏡を作りました。蛍光灯にかざすと光が分かれて虹色にきらきら光り、とても綺麗です。最後に本日のメイン、光のランプを作りました。LEDライトに和紙を巻き、思い思いの絵を書いたり、紙を貼り付けたり、世界にひとつだけのランプができました。

子どもたちにとって身近な光の不思議・魅力を再発見できた時間となったのではないのでしょうか。

参考になる本 ※すべて図書館に所蔵がある本です。

『よくわかるLED・発光ダイオードのしくみ』

伊藤尚未／著 誠文堂新光社

『電気がいちばんわかる本1』米村でんじろう／監修 ポプラ社

『光の大研究』滝澤美奈子／著 PHP研究所

『色のまなび事典(1)色のひみつ』茂木一司／編集 星の環会

『見えない光を見る』滝澤美絵／文 大月書店

『ふしぎなにじ』わたなべちなつ／さく 福音館書店



素敵なお土産ができました

編集後記

1冊の本が図書館の蔵書になり、皆さんの手にわたってからその役目を終えるまでには、多くの時間がかかっています。長い旅をして図書館にやってきた本の中から特別な1冊を見つけていただければ幸いです。

成田市立図書館だより	No.80
発行	成田市
編集	成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3	
	☎0476(27)2000
発行日	2016.3.15
登録番号	成教図 15-039



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。